

冬のライチョウを護る

有限責任中間法人 山岳環境研究所

爽快なバックカントリースキー・ボード。楽しそうですね。しかし、ちょっと待って下さい。そこは野生動物の住処です。

長野県の北部に位置する小谷村では、白馬乗鞍岳周辺(栂池高原スキー場上部)で30年以上前から春スキーに伴うヘリコプター

による人員輸送(ヘリスキー)が実施されてきました。それが、ライチョウの生息に影響を与えるのでは、と懸念する声が上がりました。観光が



白馬乗鞍岳 天狗原の祠で一休み

主要な産業の小谷村にとって、山、スキー場そしてライチョウは貴重な観光資源です。ヘリスキーは本当に影響を与えているのだろうか。事実がなければ議論になりません。環境省の協力も得られ、2007年から官民が一体となって冬期の調査とその結果の検討が始まりました。

調査の結果、ヘリスキーはライチョウの生息に影響を与えていませんでした。しかし、何も考えずに継続してよいのでしょうか。白馬乗鞍岳周辺は、積雪期のバックカントリー

には理想的な環境で、多くの人が訪れます。しかし、利用者の安全確保のための規制はありますが、野生生物(自然環境)への配慮はないに等しい現状でした。ライチョウに関する問題提起がこれからの利用のあり方を考えるよい機会になりました。



越冬期のライチョウは雌雄の混ざった集団を形成することがある。栂池自然園展望湿原付近でみられた雄8羽、雌7羽合計15羽の集団の一部

調査で分かったことは、越冬地としてライチョウが好む環境、そして頻りに利用している、コアエリアと呼べる地点です。そこから、①ライチョウ生息のコアエリアには立ち入らない、②オーバーユースを避ける、③規則を積極的に守ってもらえる体制作りの3点をメインとする規則を皆で考えました。

今後は、体制の強化と規則を自発的に護ってもらえるような情報の発信が課題となっています。

「おたりのでいじ」

HP : <http://www.deiji.info/pages/UL0020Main.aspx>

古着再生事業「かざでらR」プロジェクト かんでらmonzen亭

名古屋市南区笠寺地区は、旧東海道筋にあつて笠寺観音の門前町として繁栄してきましたが、近年元気がなくなりつつありました。そこで、笠寺まちづくりの会「かんでらmonzen亭」が、まちに活気を取り戻すとともに、循環型のまちに変えていこうと取り組んだのが、「かざでらR」プロジェクトです。

このプロジェクトは、地元の商店街、名古屋女子大学、かばん職人との連携により成立しました。環境省の平成21年度循環型社会地域支援事業への採択をきっかけに、かばん職人さんや大学の服飾系専攻の学生さんに指導をお願いし、持ち寄った古着からバッグや帽子を作る教室を月に2回開催することにしました。チラシやポスターで呼びかけると直ぐに沢山の方が参加してくれるようになりました。



参加者と学生

どう加工したら良いのか迷っていた参加者も、元の形をどう生かしたらよいかなど学生達のセンスによるアドバイスを受けながら、オリジナルな一品を作る喜びがわかってきました。腕を上げてきて売りたい作品は、商店街に協力をいただき、笠寺ブランド「かもん」として販売してもらうことになりました。さらに「かもん」を知ってもらうため、ファッションショーの開催やEXPOエコマネーの交

換商品への提供も行いました。

こうして平成21年度には200名もの方々に参加してもらうことが出来ました。

平成22年度からは、開催頻度を月2回から4回に増やし、さらに多くの方々に参加していただいています。

作品もバッグや帽子だけでなく、スカーフ、リフォーム、小物などにも広がってきました。



ファッションショーのモデルさんと作品

今後も、地域の皆さまのご協力をいただきながら、より多くの方に関わっていただくことで、人の「わ」と循環の「わ」を広げていきたいと思ひます。

かんでらmonzen亭 電話 : 052-822-0885

メール : kandera@minamix.net

HP : <http://minamix.net/kandera/>



笠寺ブランド「かもん」のロゴマーク

かんでらRプロジェクトから笠寺ブランド「かもん」が誕生! 「かもん」は、地域と連携を促せる持続可能なブランドです。

夏には通気性がよく軽いことから、絞りの浴衣から作った帽子が評判になり、製作しているうちに注文が入るほど。イベントへの出店なども行い、これまでに20点ほど販売しました。